

「おお、ちやんと  
言われた通りの下着を  
着けてきたんだなあ？  
中野お」

「……これで  
妹たちの成績は  
保証してくれるんでしょね」

「んん……ああ」

「それはこの後の  
お前の態度次第だなあ」

「おいおい良いのか？  
そんな口聞いて」

「わかってんなら  
さっさとこっちに  
ケツ向けるオラ」

「……………  
す……………みま……………せんっ……  
でした……………」

「なあおい」花ちゃんよお  
どんな気分だあ？」

「これからおっさんのくっせえ  
チ○コ無理矢理挿入られる  
つてのは」

「っ……………あっ……………」

「このっ……………ふっ……………  
クズ教師……………！」





『さあで...とほぢほぢ始めるぞお』

ほろん

待つ

『ふんッ』

っ!!

『あ？何か言ったか？』

ズ

ヒッ

『どうだあ？中野お  
先生の汚え中年チ○コ  
啜えた感想はあ？』



ズチュ

ズチュ

ズチュ

ズチュ

ズチュ

ズチュ

は

ん

は

は

は

あ...  
あ♡

は

は

は

は

『だらしねえデカ乳と  
違って良く締まるマ○コ  
してるじゃねえか ええ？』

それから一花は  
休みなく  
されるがままに  
俺に犯され続けた

初めは喘ぎ声を  
抑えるように  
していたが

1発膣内に出してやって  
からは徐々に甘い声を  
出すようになった

だがこれだけで  
昂りが収まるはずも  
なく

そして俺は彼女の  
瑞々しい肉体を余すことなく  
味わい尽くす



キスを頑なに拒絶するので  
唾液は念入りに  
無理矢理流し込んでやった

途端に  
大粒の涙を零し始めたのは  
興奮した

このときの膣内射精が  
都合4発目のものだった

尻の穴にも突っ込んでやると  
思いの外反応が良かったので  
徹底的に犯した

2発目を出し終わると同時に  
獣のように鳴きながら  
潮を吹いたのは滑稽だった

乳首をいじる度に  
喘ぐのが可笑しく  
入念に愛撫してやった



ちゅっ  
ちゅっ  
ちゅっ

ぬっ  
ぬっ  
ぬっ

ぬっ  
ぬっ  
ぬっ

ぬっ  
ぬっ  
ぬっ

ぬっ  
ぬっ  
ぬっ

ちゅっ  
ちゅっ  
ちゅっ

んっ  
んっ  
んっ

んっ……

んっ  
んっ  
んっ

んっ  
んっ  
んっ

んっ  
んっ  
んっ

んっ  
んっ  
んっ

んっ  
んっ  
んっ

んっ  
んっ  
んっ

んっ  
んっ  
んっ

んっ  
んっ  
んっ

んっ  
んっ  
んっ

んっ  
んっ  
んっ

んっ  
んっ  
んっ

んっ  
んっ  
んっ

んっ  
んっ  
んっ

んっ  
んっ  
んっ



「おらッ 射精すぞ！  
しっかり受け止めやがれッ」

「なんだあ中野？  
先生のチ○ポそんなに  
気に入ったのかあ？」

「これで最後だ  
ちゃんとマ○コ締めろよオイ」

「おい中野明後日も  
同じ時間に来い」

「あゝゝ射精した射精した」

「大事な妹たちを  
卒業させたいんなら、なあ？」

あッ  
あッ

あッ  
あッ

あッ  
あッ

あッ  
あッ

あッ  
あッ

あッ  
あッ

あッ  
あッ

あッ  
あッ

あッ  
あッ

あッ  
あッ

あッ  
あッ

あッ  
あッ